グアダルーペの列聖 調査始まる

カトリック教会は、オプス・デイ草 創期の女性信者、グァダルーペ・オ ルティス・デ・ランダースリの聖な る生涯を調べている。ランダースリ 女史は、スペインとメキシコで使徒 職を開始。オプス・デイのセンター では、管理の仕事に携わっていた。 マドリッド大司教ロウコ枢機卿が列 聖調査会を主宰。

調査開始式は、11月18日、マドリードのセンター「スルバラン」で行われた。式の中でロウコ枢機卿は、ランダースリ女史の生涯に触れ、「福者ホセマリアが始めた使徒職とその仕事を支えようと、全身全霊をこめ、全生涯を捧げました」と述べた。

さらに、ロウコ枢機卿は、教会と世界における聖なる信徒の必要性に言及し、オプス・デイ創立者の言葉を引用。「キリスト信者への召し出し。それを育み、生命を吹き込む。

それが聖人になるということです。 これこそ、今も将来も教会の使命で あり命なのです。」と語った。

1944年、ランダースリ女史

(1916-1975) は、福者ホセマリアに出会う。社会の中で神に仕える召し出しを確信。福者ホセマリアは、草創期からオプス・デイ進展のために彼女を頼り、1950年にメキシコで使徒職を始めるよう依頼。女史は、6年間にわたって首都、モンテレイ、タカンバロとアミルパスで農村女性の教育に尽くした。

その後、マドリードにある二つの研究機関で教職につく。1965年、マドリード大学で化学の博士号を取得。教え子や同僚は、その教授法のレベルの高さを異口同音に称えている。どんな人にも親切であり、キリスト教的視点と自由を尊重する雰囲気が、その指導にあふれていた。

ロウコ枢機卿は、列聖調査手続き開始の法令に署名、生前を知る資料や証言を収集する法廷を指定し、定意が望むのは、言をが望むのは、ででは、認められることをが望むのは、とのでは、以びでは、以びです。私たちは、ランダースリーの生涯を知る必ずのです。教会には、のです。教会には、これを伝える使命があります。」

さらに、ロウコ枢機卿は、ランダー スリ女史の生涯についてこう述べ活動 いる。「優れた資質に恵まれ、活動 家でした。責任感にあふれ、神かた。 頂いた美点を見事に活用しまが窺いた 美点を見事に活用しまが 記の随所にそれが表われ ています。しかも、彼女が十字架を 担うべき時になると、その深さは極 限に達しました。」 列聖調査請願人バニト・バドリナス は、次のように述べた。「教皇ヨハ ネ・パウロ二世は、現代の聖性のモ デルを公にしたいとお考えです。ラ ンダースリ女史は、親しみやすく、 愛すべき模範です。疲れをものとも せず仕事に励み、キリスト教的観点 から諸問題にあたりました。教育 上、精神上の必要を満たすよう周囲 に心を配り、親切を欠かしませんで した。神への愛に基づいて暮らして いました」。さらに「女史の生涯 は、偉大なものです。でも、小さな こと、本当に小さな実践を続けただ けです」と言葉を続けた。最期に、 女史が生活の道標としていた福者ホ セマリアの言葉を引用し「聖性への 招きは、内的生活を深め、キリスト 教的諸徳を日々実行すること。しか も、ありきたりの方法ではなく、最 も素晴らしい方法で、つまり文字通 り英雄的なレベルで実行するようあ らゆる人に求めるのです | という言 葉で締めくくった。

女史の兄で医師、エドワルド・オルティス・デ・ランダースリ (1910—1985)の列聖調査手続も1998年、パンプローナ司教区で開始された。氏もオプス・デイのメンバーで聖徳の誉れが高い。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/randasurinu-shi-nolie-sheng-diao-chashi-maru/(2025/12/13)